

令和3年度 学力スタンダード指導計画・報告書【様式1】

教科：(公民)科目：(現代社会) 対象：(第2学年1組～7組)

教科担当者：(1～7組:池田 印)

教科の指導目標	学力スタンダードを基として、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図ると共に、広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質の基礎を養う。
---------	---

	高校入試等の分析結果	分析結果を踏まえて検討した指導内容	指導体制の確立
年度当初	<p>基本的知識を問う問題は良くしており、グラフを読み取る問題もほぼ理解はできているが的確な表現という点ではやや低い。また環境問題や地域社会の現代の問題などグローバルな考察力や教科書の資料に関する考察力はややかける。複雑な社会的な見方、考え方はやや低い。</p> <p>それは義務教育での丸暗記が社会科教育だとの誤解もその一因であろうか、やはり大きなヒントなしには取り組めないなど、思考力・判断力・表現力といった自分の頭を使うことが苦手である。義務教育段階での弱点の克服が課題である。</p>	<p>地歴公民科の中核となる本科目とはいえ、本校の特色・方向性からすると、ほとんどの生徒が地歴・公民科科目を利用した受験をしない現状があるなか、必要最低限の思考力・判断力・表現力の育成として以下のように考える。</p> <p>◆高校入学までの学習成果をもとに、「広い視野」に立った態度を多面的・多角的に養う。</p> <p>◆現代社会の課題に対し、「主体的に考察・理解」する態度を養う。</p> <p>◆左記の分析結果を踏まえ、第一に基礎的・基本的知識の確実な理解及び定着を目指す。それとともに、思考力・判断力についての確認を調査問題で具現化する。</p>	<p>◆教材（ワークブック）の活用</p> <p>基礎的・基本的な内容の定着のため、基本的に考査前の授業でプリントによる知識・技能の定着と多面的な思考力の把握を行う。</p> <p>◆発問や問答を多く取り入れる</p> <p>アクティブラーニングの重要性が問われる昨今であるが、本校の現状を鑑み、発問・問答を多く取り入れその一歩とする。</p> <p>◆ICTを導入した授業</p> <p>ICTを導入した授業をおこなう。ときに現実的な内容のビデオ上映も行き、視覚的観点から知識の定着をねらう。</p> <p>◆小テストによる授業内容等の理解</p>

	生徒の変容	生徒の学力の定着状況	次年度に向けた指導体制の改善
年度末			